

URBAN-REPORT

鍵の歴史について

■はじめに

今回でついに2回目のアーバンレポート執筆担当が回ってきました。前回何を書いたのか見返してみると私どもが日頃取り扱っている賃貸物件そのものの歴史についてまとめていました。

その最後、まとめとして「スマートロックが当たり前」と綴っていました。前回から約8年、考えてみるとここ3~4年で引渡した新築のほとんどがスマートロックの物件となってきました。

そう考えると鍵に限らずIT化が凄まじいスピードで進んでおり、取り残されないように・ふるい落とされないよう、今まで以上に先を見て仕事をしないといけないと身が引き締まる思いです。

さて今回はきっかけとなったスマートロック、ひいては鍵の歴史について書いて行こうと思います。

そもそも鍵とは私が生まれてから今日まで家・学校・事務所・居酒屋の下駄箱にまでどこにでもついているのが当たり前、日常生活には欠かせないもので不思議に考えた事はありませんでした。

人類で最初に鍵を考えた人は何を思って鍵をかけたのでしょうか？何か大事なものを隠した？高価なものを守るため？現在の鍵はもちろん防犯上、安全を守ることが目的となっているかと思えます。



■世界最古の鍵

現代で確認されている中で最初の鍵が登場したのは紀元前2000年にまで遡るそうです。古代エジプトで作られた「エジプト鍵」が歴史上最古の鍵。古代の道具でありながら仕組みは現代の鍵と共通する構造になっているそうです。約4000年も前から人類は同じ鍵を使っていると言えます。

最古の鍵は何のために使われていたのか？

使用用途は現代と同じように大切なものを守るために使われていました。当時の鍵は巨大だったため、倉庫などの大きな建物に備え付けられ、作物や宝物を守るために使われたと考えられています。窃盗みたいな悪いことを考える人間は当時から存在していたのでしょう。

紀元前300年後には鍵の小型化が進み、たんすのようなケースや家の玄関などを守るためにも使われるようになりました。加工技術の進化によって鍵に装飾をあしらうことも増え、調度品として珍重されることもありました。それでも、今も昔も鍵の基本的な用途は変わっておらず、「防犯」のために生まれ、進化してきた人間の知恵の結晶なのです。

ちなみにエジプト鍵ですが木を使って造られていたそうです。鍵穴も鍵も木製だったということで腐食する事もあったのかなと妄想します。巨大だったのであれば作り直すのも大変だと思いましたが、エジプトといえばピラミッドやツタンカーメンマスクなど鍵よりもはるかに造るのが大変なものを造っていたので何ともスケールの差に驚きました。

■日本最古の鍵

日本最古の鍵は現代から約1370年前の西暦650現に登場し、「海老錠」という名前と呼ばれておりました。流入経路として中国などの大陸から伝わってきたとされ、国産の鍵と錠前はあまり普及しなかったということです。この鍵は大阪にある野々上遺跡で発掘されました。エビのような形をしていることから「海老錠」という名が付けられました。かわいい名前ですが仕組みはとても複雑だったとされています。

この海老錠は平城京や平安京など、日本古代で盛んに使用されました。古代の宝物庫や家庭に置かれる仏壇の鍵にも同じ仕組みの鍵が使われており、やはり用途は内部の安全を守るため。世界でも日本でも古代でも現代でもその点は変わっておりません。それまで日本では戸締りと言えば、戸板と壁にはさむ心張棒か門扉をつなぐ門が主流で、鍵と錠前が普及するのは江戸時代までだったそうです。江戸時代に入ると錠前のからくりを造る職人が現れ、各地で京錠や戸佐錠など地名を冠した錠前と鍵が造られるようになります。ただ一般庶民の間にはまだまだ広がらず、家の戸締りは相変わらず心張棒という世界でした。

■近現代の鍵

やがて明治時代に入ると洋風建築や洋式ドアをセットで錠前も普及するようになります。和式の引き戸から洋式のドアへ移り変わり、心張棒では戸締りが出来なくなるようになります。これらは輸入に頼っていたとされ、昭和時代に入るとシリンダー錠の国産化が進み、より一般的なものとなりました。

しかし大東亜戦争が始まると金物メーカーは軍需産業へ転換を余儀なくされ、錠前文化の発展は足止めをくらいます。敗戦後から高度成長期にかけて、円筒錠が普及し、一般庶民の住まいにもドアが当たり前になっていきました。この頃になると都市部では人口が密集し、それにともない犯罪も増えていきます。防犯性能を高めるため、ドアの内側に錠箱を設け、こじ開けを防ぐサムターン式の錠前なども普及しました。

平成・令和の現代ではオートロックが採用されるなど鍵と錠前も大きく進化をとげました。



■まとめ

私が入社した当時はいわゆる普通の鍵、鍵を錠前に差すタイプのもので種類が多く覚えるのに苦労いたしました。ギザギザしているのがU9、表面にくぼみがあるのがディンプルキー。その中でも錠前交換の方法が何通りもありましたが今は錠前だけ見ればだいたい作業できるくらいまでにはなれました。ちなみに「ディンプル」は「えくぼ・くぼみ」という意味だそうです。世界の歴史と比べると断然ペラペラの私の歴史ですが、私が鍵交換を経験してから一番驚いたのが「チェンジキーシステム」です。錠前を交換せずに鍵だけで鍵交換が出来る！？目から鱗が落ちる気持ちでした。

それで感動していたのもつかの間、スマートロックが爆発的に普及し始めました。なんと錠前の交換もなし、物理的な鍵がないという事。当時は操作方法を聞いても全然付いていきませんでした。お客様へ説明するにも自分がやったことが無いのにどうやって説明できようか……。スマートロック物件へ最初にご入居されるお客様と一緒に現地に行き、説明書を見ながらお客様と一緒に操作をしたのを思い出します。スマートロックにもいくつか種類がありますが、スマホを連携させたり、ICカードを連携させたり、パスワードを設定したりと基本動作は変わらないように思えます。防犯上はピッキングはまず無理、登録した媒体を落とさない限りはとても安心と言えるでしょう。万が一落としてしまっても、その物件のその部屋までたどり着く可能性はとても低いと言えます。またメーカーにてそういった際の対策も万全に整えているはずです。スマートロックは慣れれば快適に操作できますが、物理的な鍵が無いのは今でも違和感を拭えない私がいいます。

スマートロックの次は？とAIに聞くと、『賃貸物件の鍵は「物理鍵 → スマートロック → 生体認証・クラウド管理」へ確実に進化していく。すでに日本でもその流れは始まっていて、今後10年で「鍵を持ち歩く」という文化自体が薄れていく可能性が高い。』との事。管理会社目線で考えると物理鍵の管理・保管をするより、スマートロックを標準にする方がリスクヘッジに繋がるように思います。

ドアにAIが搭載され、登録した人間をAIが識別、自動的に開錠なんて未来が来るかもしれません。

信じるか信じないかはあなた次第です。